

平成21年度文部科学省委託事業 青少年体験活動総合プラン

伊予の伝承文化を学び伝えるリーダー村

大学生リーダーは、短い期間であったが自然体験の必要性や活動中の危機管理について学ぶことができました。

小学生は、惣川の自然の中でのびのびと活動し、歴史や文化にふれ、地元の皆さんとの交流を深めることができました。

1. 事業実施までの経緯

これまでの体験活動は、自然体験活動が中心であり、空間的に日常と違った場に身をおいて行う体験活動が主であった。本事業は、伝承文化体験を中心とした体験活動であり、言わば、時間的に日常と違った場に身をおいて行う体験活動である。伝承文化体験を行うことで、過去から現代について考えるとともに、現代における地域リーダーのあり方を考えることは、現在の自分のあり方を考えることになるとともに、リーダーとしてどうあるべきかを考えることにもなり、今日の青少年教育の一つの課題である青少年の意欲を高めることにもつながる。また、周知のように、教育基本法が改正され、第二条（教育の目標）に「伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに…」が加えられた。本事業は、この点も視野に入れた事業である。

2. ねらい

愛媛の伝承文化を学び、先人の生活の知恵と自然体験の融合した体験活動に大学生と小学生が一緒に取り組むことで、世代を超えてともに地域を大切にしようとする心を育てる。また「子どもむかし生活体験」の計画・運営や地元の講師の方々との交流を通して、自律性や社会性を育む。

- 3. 主催** 独立行政法人国立青少年教育振興機構 国立大洲青少年交流の家
国立大学法人 愛媛大学
- 4. 後援** 愛媛県教育委員会 西予市教育委員会
- 5. 期 日** 平成21年8月18日（火）～23日（日）〈5泊6日〉
（子どもむかし生活体験は8月21日（金）～23日（日）〈2泊3日〉）
- 6. 場 所** 国立大洲青少年交流の家（18日（火））
西予市野村町惣川「土居家」（19日（水）～23日（日））
- 7. 参加人数** 大学生7名（募集人数15名）
（子どもむかし生活体験 小学校5・6年生13名（募集人数20名））
- 8. 講 師**
菊間 彰氏（よろず体験事務所 をかしや代表） 清水 浩氏（国際竹とんぼ協会会員）
大本 敬久氏（愛媛県歴史文化博物館専門学芸員） 犬伏 武彦氏（松山東雲女子短期大学教授）
西予市野村町惣川地区の皆さん 山崎 哲司氏ほか愛媛大学教授・准教授
国立大洲青少年交流の家担当職員

9. 日 程

	9:30	10:00	10:30	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	19:00	20:30								
8/18 (火)	受付	開講式	アイスブレイク	昼食	人間関係づくりⅠ	体験活動の意義と方法	自然体験活動の意義	現代の教育 (愛媛大学)	安全管理	夕食	人間関係づくりⅡ	情報交換会								
8/19 (水)	参加者にインフルエンザ発症者が出たため19日以降のプログラムは中止 21日からの「子どもむかし生活体験」は、所員のみで実施																			
8/20 (木)	8:30			12:30		13:30		18:00		20:00										
	竹とんぼ作り研修			昼食	現地下見・安全管理実習				夕食入浴	「子どもむかし生活体験」 運営準備										
8/21 (金)	8:30			10:30		11:00		12:00		13:00		14:00		16:00		18:00		20:00		
	「子どもむかし生活体験」 運営準備			結団式	なかまづくりゲーム		昼食	うちわ作り パート1		土居家探検		うちわ作り パート2		夕食入浴	班活動 ふりかえり					
8/22 (土)	9:00				14:00				16:00				18:00				20:00			
	むら探検				むかし祭り体験 (念仏踊り)				竹とんぼ作り				夕食入浴	班活動・ふりかえり ちょうちんハイク						
8/23 (日)	9:00			11:30		12:00		14:00				14:30		16:00						
	むかし料理体験 (うどんづくり)			解散式		小学生帰所														

※6:30起床 7:00朝のつどい 7:30朝食 21:30ふりかえり 22:00スタッフ会議 22:30就寝

10. 活動内容



丸太でラインナップ



人間知恵の輪



体験活動の意義と方法



安全管理

アイスブレイクや人間関係づくりで、参加者相互とスタッフの人間関係を作っていた。最初は緊張した表情であったが、次第に仲間意識が生まれてきたのがわかった。

体験活動の意義と方法では、國府次長から体験活動の重要性について、自然体験活動の意義では、講師の菊間氏から自然体験の必要性について、安全管理ではKYKトレーニングを通して活動中の危機管理の視点を学んだ。

1日目 8月21日(金)



【結団式】

新山所長（村長さん）のあいさつで、2泊3日の子どもむかし生活体験がスタートした。スタッフと「土居家の掟（生活の基本ルール）」や1日のスケジュールを確認した。



【なかまづくりゲーム】

自己紹介やなかまづくりのゲームを通して、新しい友達とも仲良くなっていった。2つの班に分かれ、リーダーを決めた。



【うちわ作り】

うちわ作りパート1では自分の趣味や好みに合わせて、思い思いのメッセージやイラストを描いた。パート2では、うちわの形に切り抜き、「へり紙」や「ぎぼし」を貼りつけてオリジナルうちわを完成させた。



【土居家探検】

犬伏先生から土居家の歴史について詳しい説明があった。また、立て替え作業中の貴重なスライド上映もあった。



【班活動・ふりかえり】

「土居家の掟（生活の基本ルール）」をもとに班の目当てを話し合い、発表した。最後に一人ずつ初日の活動をふりかえり、感想を発表した。



【惣川の村探検】

土居家から惣川神社まで、地域の人々や豊かな自然とふれあいながら散策した。時間がたつのも忘れて、夢中で川遊びや水生生物調べに没頭した。



【むかし祭り】

惣川地区に伝わる念仏踊りを見学した。その後、実際に太鼓や鉦(かね)のたたき方を指導があり、熱心に練習した。最後は合同で発表会をした。



【竹とんぼ作り・飛ばし大会】

小刀で竹の板からプロペラを削り出して軸に固定するという、清水先生直伝の竹とんぼを作った。滞空時間と飛距離の2部門で「竹とんぼ飛ばし大会」も開催した。



【むかしあそび】

こま回し・けん玉・羽子板・カルタ・めんこ…などなど、休み時間になるとおもちゃ箱を掘り返して、昔の遊びを楽しんだ。こま回しが大ブームであった。



【班活動・ふりかえり】

2日目の夜は、班の企画コーナー。班ごとに活動内容を相談し、カルタ大会や野球盤で盛り上がった。班活動の最後に希望者を集め「ちょうちんハイク」で土居家周辺を夜回り。和ろうそくのちょうちん明かりと惣川の星空はムード満点であった。

3日目 8月23日(日)

【朝のつどい】



最終日の土居家の朝、班の代表者から活動の目当ての発表があった。食堂（レストラン倉）には、今日も絶品の豆腐料理が並び、参加者全員舌鼓を打った。

【掃除・自由時間】



最終日の朝掃除は、感謝の気持ちを込めて特に念入りに行った。うどん作りまでの自由時間は、野球盤やけん玉、こま回しを楽しんだ。

【むかし料理（うどん作り）】



むかし料理は、惣川に代々伝わる手打ちうどんを作った。順番に足で踏んで小麦粉の玉をねっていき、最後は製麺機に通して麺を仕上げた。

【解団式】



竹とんぼ飛ばし大会の表彰と國府次長（クニさん）のあいさつで、むかし生活体験が幕を閉じた。惣川の自然と風土、人々の優しさや温かさに触れた3日間であった。

11. 参加者の声

参加者の事後アンケート結果

- * 満足：100.0% * やや満足：0.0% * やや不満：0.0% * 不満：0.0%
- 竹とんぼ作りは初めてだったけど、上手にできてよかったです。
 - 知らない人ばかりだったけど、みんなと知り合えて楽しく最後までいい思い出になった。
 - 最初はとても楽しかったけど、人をいじめるみたいな人がいて、帰った子を見て、とても悲しかった。でも、全体を通しては、とても楽しかった。
 - 友達と協力して作ったり行動したりしないと1人ではやれないと思いました。

12. 成 果

IKR評定用紙（簡易版） 事前事後の比較

上位能力	心理的社会的能力							徳育的能力				身体的能力		
	非依存	積極性	明朗性	交友・協調	現実肯定	視野・判断	適応行動	自己規制	自然への関心	まじめ勤勉	思いやり	日常的行動力	身体的耐性	野外技能・生活
事前	4.15	3.92	4.62	4.48	4.23	3.36	3.69	4.28	4.12	4.35	4.15	3.81	4.27	4.54
事後	4.96	4.54	4.67	4.58	4.29	4.13	4.5	4.79	4.71	4.58	4.92	4.29	4.5	5.04
差	0.8	0.62	0.05	0.1	0.06	0.77	0.81	0.51	0.59	0.24	0.76	0.48	0.23	0.5

下位能力では「非依存」や「視野・判断」、「適応行動」のポイントが上がっており、中でも「視野・判断」の調査項目「自分で問題点や課題を見つけることができる」では2.67→4.17と大きく伸びているので、自分を見つめ、自主的に活動しようとする意識が高まったと考えられる。

28項目の合計値の得点範囲 事前：69～144 事後：76～161

28項目の合計値の平均 事前：115 事後：128.67 13.67点向上

13. 課 題

今回は、リーダー事前研修が新型インフルエンザのため途中で中止になり、大学生が「子どもむかし生活体験」に参加できなかった。急遽、当所職員が大学生の代わりにリーダー役を務めることになったが、職員が「お兄さん」「お姉さん」役を演じ、小学生をうまくまとめたり、トラブルがあったときにそばに寄り添って対応したりすることが難しかった。

今回、大学生の参加者は7名とやや少なかった。関係機関との連携不足や事業が5泊6日の長期間に及ぶこと、大学生が参加しやすい時期の開催でなかったことがその原因として考えられる。やはり相当数の大学生の参加がなければ、本事業の目的を十分に達成したとは言いがたい。この問題を解決すべく、関係機関との連携を密にし、内容や事業期間、実施時期を見直すことで、意欲のある大学生が参加しやすい事業を目指していきたい。